

日本学術振興会バンコク研究連絡センター
活動報告書(2006年7月～9月)

バンコクの風 ลมจากกรุงเทพฯ

タイ科学技術週間展示会

8月11日から22日まで、バンコク国際貿易展示センター(BITEC)にて、タイ科学技術週間展示会(Thailand Science Week)が開催された。これはタイ政府及びタイ科学技術開発庁(NSTDA)が、青少年、国民に科学技術を広く紹介し関心を高めてもらうため年に一度開催しているもので、当センターもNSTDAからの依頼により、今年初めて展示会に参加した。展示会初日の開会式には、シリントーン王女も出席され、その後展示会会場の各ブースを見学された。当センターは、今回の参加にあたり、タイとの教育研究活動で長年の実績を有する日本の3つの大学(京都大学、東京工業大学、大阪大学)と共同でブースを設置し、ポスター掲示を中心に日本における科学技術の紹介を行った。当センターからは、JSPSの国際関係活動のうち、招へい外国人制度や論文博士号取得希望者のための事業を中心に紹介した。展示会と平行して、科学技術を代表する専門家による講演会も行われ、日本からは日本未来科学館館長の毛利衛氏が11日に講演した。講演では、宇宙ステーションでの体験・実験を分かりやすく紹介し、タイの生徒からの質問に気さくに回答していた。日本からは、独立行政法人産業技術総合研究所(AIST)や新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)、宇宙航空研究開発機構(JAXA)が出展した。その他当地に生産拠点を持つTOYOTAなどの民間企業の出展も数多く見られ、連日10万人を超えるタイ国民が見学に訪れ、総計100万人とも言われる来場者数を得て、大盛況のうちに終了した。



泰日工科大学(Thailand-Japan Institute of Technology)

タイの元日本留学生を中心に1972年に設立された泰日経済技術振興協会(TPA)が、2007年6月に泰日工業大学をバンコクに設立の予定である。泰日工業大学は、現地日系企業のニーズに合った人材を安定して供給すること、日本語の能力を有する人材を育成すること等を通じ、タイと日本とのいっそうの経済連携と友好関係の発展を目的としている。TPA設立以来30年にわたる日本のODAを通じた日タイ技術協力の実績と経験を活かし、現在のタイ産業界全体の抱える、優秀な技術者の人材不足、という問題を解消するための、エンジニア教育を目指している。また、産学連携・産学密着型の教育を目指している。泰日工科大学については、以下が詳しい。<http://www.meti.go.jp/press/20070314001/tniu-p.r.pdf>

設置学部・学科

	学部	学科1	学科2
大学(学士)レベル	工学部	自動車工学科	生産工学科
	情報学部	情報技術(IT)学科	コンピュータ工学科
	経営管理学部	工場経営管理学科	人材開発管理学科

大学院(修士)レベル	経営管理学部	工場経営管理学	
------------	--------	---------	--

ARAT ワークショップ

タイ国元論授与者協会 (Association of RONPAKU Alumni of Thailand, ARAT) と King Mongkut's Institute of Technology at Ladkrabang (KMITL) 及び本センターの共催事業として、8月24日、25日に“Introduction to the Design, Fabrication and Application of Silicon Crystalline on Solar Cells”をテーマにしたワークショップが KMITL にて開催された。これは、ARAT の企画としては初のワークショップで、論博を取得し現在 KMITL にて教育研究活動を行う教官が中心となり、高校で教鞭を振るう教員に対し、最新の研究状況を紹介した。

Thailand Research Expo

9月9日～13日、Bangkok Convention Center, Central Plaza, Laprao において、タイ学術研究会議 (National Research Council of Thailand, NRCT) 主催により、Learning Society をテーマに、Thailand Research Expo 2006 が開催された。当センターもタイ国元論博授与者協会 (ARAT) と協力してブースを設置し、JSPS の事業紹介を行った。開催期間中 11 日には、“The Challenge of International Cooperation” に関するセミナーが行なわれ、今後の研究協力の発展について、中国 (NSFC)、インド (ICSSR)、韓国 (KOSEF)、国際科学者会議 (ICSU)、タイ (NRCT) の各国の学術振興機関の代表と共に吉田センター長が議論に参加した。12 日には、ARAT, NRCT 共催による “Thailand-Japan Cooperation Program : JSPS RONPAKU (Dissertation Ph.D.) Program on Country Development” についてのパネルディスカッションが行なわれた。



Symposium BioPlastics 2006

9月21日から24日まで、バンコク Siam Paragon にて、InnoBioPlast 2006 が開催された。これはアジアで最初のバイオプラスチックに関する会議で、併せてバイオプラスチック技術に関する展示も行なわれた。開会式では、タイ科学技術大臣のほか、National Innovation Agency (NIA, タイ技術革新局)、German Technical Cooperation (GTZ)、Thai Bioplastics Society (TBS, タイバイオプラスチック学会) からの代表が挨拶し、地球規模での環境保護や持続可能な発展のためバイオプラスチックへの期待が述べられた。国連環境計画 (UNEP) の国際機関、タイ科学技術省などの政府機関、さらに民間企業からの参加・展示があり、東南アジア地域における持続可能な発展のためへの技術革新への意識の高さが目を引いた。また NIA, GTZ, TBS は、世界規模でのバイオプラスチック研究実施に関しての協定を締結し、今後4年間ロードマップに則して協力を行ってゆく。当センターも共催。

National Innovation Agency (NIA) 2003年10月に科学技術省により設置された国家技術革新委員会の監督下にある組織で、官公庁や国営企業とは一線を画した組織。戦略的な新技術の導入や、経済の再構築や社会発展の促進、さらに国家の競争力強化によって、国家的な技術革新システムの設立に向け、広範な基盤で組織的なアプローチを行う。

Commission of Higher Educationがタイの大学ランキングを公表

2006年8月31日、タイ教育省所管の Commission of Higher Education (CHE, 高等教育委員会) が、138あるタイの大学のうち49大学のランキング結果を発表した。

ランキングは国内大学を対象とする初めてのもので、CHE が収集した情報により、教育面を Student Ratio, Faculty Resources, Financial Resources, Internationality, Quality of Education の指標から、また、研究面を Funding, Personnel, Output, Graduate の指標から評価を行った。

教育と研究の2方面から大学を評価し、それぞれ5つのグループに分類し、また学部、学科の順位付けを行い、さらに、理学、

工学, 医学, 人文学, 社会学, 農学, 教育学の7分野で学部単位の順位付けを行っている。

CHE はこのランキングの目的を, 大学の質の社会への公表, 大学運営改善努力の喚起, 予算配分の際の資料とし, 毎年実施してすべての大学を評価の対象としたいとしているが, 有力大学がランク付けを拒否するなど, その評価主体の正当性, 評価基準の合理性に関して課題も残るといふ。大学のグループ分けと各専門分野で1位にランクされた学部は次のとおり。

< 大学ランキング >

	教育面	研究面
Rank 1	Chulalongkorn University, Khon Kaen University, Chiang Mai University, Mahidol University	Chulalongkorn University, Surenaree University of Technology, King Mongkut's University of Technology Thonburi, Mahidol University, Chiang Mai University
Rank 2	Kasetsart University, Rajamangla University of Technology Krungthep, Suranaree University of Technology, King Mongkut's University of Technology Thonburi,	Kasetsart University, Khon Kaen University, National Institute of Development Administration, Naresuan University
Rank 3	Walailak University, Mae Fah Luang University, Rajamangla University of Technology Srivijaya, Thaksin University, Ubon Ratchathani University, Prince of Songkla University, National Institute of Development Administration, Silpakorn University	Prince of Songkla University, Srinakharinwirot University, King Mongkut's Institute of Technology Chaokuntaharn Ladkrabang, Silpakorn University, Burapa University
Rank 4	Srinakharinwirot University, Rajamangla University of Technology Phranakon, Suan Dusit Rajabhat University, Valaylongkorn Rajabhat University, Nakhon Pathom Rajabhat University, Rajamangla University of Technology Suvanabhumi, Rajamangla University of Technology Thunayaburi, Maejo University, King Mongkut's Institute of Technology North Bangkok, King Mongkut's Institute of Technology Chaokuntaharn Ladkrabang, Burapha University, Naresuan University, Mahasarakham University	Mae Fah Luang University, Loei Rajabhat University, Udon thani Rajabhat University, Nakhon Ratchasima Rajabhat University, Valaylongkorn Rajabhat University, Suan Dusit Rajabhat University, Walailak University, Maejo University, King Mongkut's Institute of Technology North Bangkok, Ubon Ratchathani University, Mahasarakham University, Thaksin University
Rank 5	Surat Thani Rajabhat University, Chankasem Rajabhat University, Dhonburi Rajabhat University, Phranakhon Rajabhat University, Nakhon Srithammarat Rajabhat University, Tapee College, Bandit Borihanturakit College, Yala Rajabhat University, Uttaradit Rajabhat University, Nakhon Sawan Rajabhat University, Pibulsongkram Rajabhat University, Loei Rajabhat University, Sakon Nakhon Rajabhat University, Udon thani Rajabhat University, Nakhon Ratchasima Rajabhat University, Buriram Rajabhat University, Rajanagarindra Rajabhat University, Thepsatri Rajabhat University, Muban Chom Bung Rajabhat University, Chiang Mai Rajabhat University	Rajamangla University of Technology Phranakon, Chandrakasem Rajabhat University, Dhonburi Rajabhat University, Phranakhon Rajabhat University, Tapee College, Bundit Borihanturakit College, Rajamangla University of Technology Thunayaburi, Rajamangla University of Technology Krungthep, Rajamangla University of Technology Suvanabhumi, Rajamangla University of Technology Srivijaya, Surat Thani Rajabhat University, Nakhon Srithammarat Rajabhat University, Uttaradit Rajabhat University, Nakhon Sawan Rajabhat University, Pibulsongkram Rajabhat University, Sakon Nakhon Rajabhat University, Buriram Rajabhat University, Rajanagarindra Rajabhat University, Thepsatri Rajabhat University, Nakhon Pahom Rajabhat University, Muban Chom Bung Rajabhat University, Yala Rajabhat University, Chiang Mai Rajabhat University

< 各専門分野1位 >

	教育面	研究面
Science	Faculty of Science, Mahidol University	The Petroleum and Petrochemical College, Chulalongkorn University
Technology	Faculty of Engineering, Chulalongkorn University	The Joint Graduate School of Energy and Environment, King Mongkut's University of Technology Thonburi
Biomedical	Faculty of Medicine, Ramathibodi Hospital, Mahidol University	Research Institute for Health Sciences, Chiang Mai University
Humanities & Arts	Faculty of Decorative Arts, Silpakorn University	Faculty of Fine Arts, Chiang Mai University
Social Science	Sasin Graduate Institute of Business Administration, Chulalongkorn University	Institute for Population and Social Research, Mahidol University
Agriculture	Faculty of Agriculture (Kamphaensan Campus), Kasetsart	Faculty of Agro-Industry, Prince of Songkla University

	University	
Education	Faculty of Education, Chulalongkorn University	Faculty of Education, Chulalongkorn University

タイの大学ランキング公表をめぐる新聞報道

Thammasat 大学長は昨日、Commission of Higher Education(高等教育委員会, CHE)が今日発表するトップ50大学ランキングを、評価は限定的過ぎ、高等教育界に混乱をもたらすだろうとして、拒否すると明言した。「評価の専門的知識のない CHE のランキングでなければ受け入れるだろう。それにランク付けは CHE の役割ではない」と Surapol Nitikraipoj 氏はいふ。CHE の調査結果は、大学に与えられた使命のすべてでない学術と研究にばかり偏りすぎ信頼できるものではない。ランキングを受け入れる大学はないと信じているが、CHE が公表に踏み切れば、その後起こりうる事態に責任を取るべきである。根拠のないことを行えば、国内の大学に混乱を引き起こすだろう。という。CHE 事務局長 Pavich Tongroach 氏は、今日発表される大学ランキングは充分実証されていて、研究と教育の改善促進に繋がるだろうという。学長がランク付けを断ったため、リストには Thammasat 大学は含めていないという。今年初めに CHE の計画に反対の文書を大学として送り、5月に評価を取りやめる回答を得たという。ランキングは Office of Evaluation and Certification of Educational Standards によって行われるべきだという。この Office の委員長 Somwang Piriyanuwat 氏は、ランク付けを実施する機関は(例えばマスメディアから)独立性が保たれていなければならない。Pavich 氏によると、Thammasat 大学のほかに2つの私立大学が辞退したという。しかし、ランキングの情報は将来の年度予算配分の際に利用されることを注意しておかなければならない。ランク付けされなかった大学にも影響を与えることになるだろうと語った。(2006年8月31日 The Nation)

昨日 Commission of Higher Education(高等教育委員会, CHE)の発表によると、Mahidol, Chulalongkorn, Chiang Mai 大学が教育・研究の分野で国内大学のトップにランキングされた。大学長の中には評価基準に賛同しない人もいるが、CHE は始めてトップ50大学のランク付けを行い、大学を5つのランクに分けることとなった。教育分野における80点満点中75点以上を獲得した第1の大学グループは、Mahidol, Chulalongkorn, Chiang Mai そして Khon Kean 大学である。70点から74点までの第2グループには、Kasetsart, Suranaree 大学, King Mongkut's University of Technology Thon Buri そして Rajamangala University of Technology Krungthep が入った。60点未満の最終グループには、Rajabhat 大学の地方大学の大部分がランクされた。優れた教育を行う大学の評価基準として、学生率、教職員の人材、資金、「国際性」そして教育の質が用いられた。研究活動分野において優秀とランクされたのは、Chulalongkorn, Chiang Mai, King Mongkut's, Suranaree

大学である。次のグループは Kasetsart, Khon Kaen, Naresuan 大学と National Institute of Development Administration である。最終グループには Rajamangala の各大学と Rajabhat 大学がランクされた。CHE では、理学、工学、生物医学、人文学、社会学、農学、教育学の7分野におけるトップ50の学部もランク付けしている。理学分野において Mahidol 大学理学部が1位にランクされ、生物医学部門では Ramathibodi Hospital にある医学部が1位となった。Chulalongkorn 大学工学部は工学分野でトップになった。ランキングの初年度には、138大学のうち51大学しか判断材料となる情報を返答しなかった。Thammasat 大学は情報を送ったが、学長が順位付けを拒んだのでリストには載っていない、と CHE 事務局長 Pavich Tongroach 氏は話す。ランク付けを拒んでいるいくつかの大学のことについて訊ねると、「問題ない。結果は信頼できると言える。もしランク付けをしなければ、よその国がおこなっていただろう。我々自身でランク付けをおこなった方がよくはないでしょうか?」Pavich 氏は、ランキングは大学の情報を公表する意味を持ち、高校生に大学を選ぶ際の指針ともなる、という。Mahidol 大学長 Pornchai Matangkasombat 教授は、長い間一番の国立大学だとの自負がある。ランキングは競争のためでなく、タイのすべての大学の改善を狙いとしている。という。教育部で第4グループにランクされた Srinakharinwirot 大学長 Virun Tungcharoen 博士は、すべての結果を信じるのが出来ない。ランク付けを行った人の情報が正確であれば、我が校はこのグループに位置するわけではないと語る。(2006年9月1日 The Nation)

木曜日(2006年8月31日)発表された初の国立大学ランキングにより、高等教育界では混乱が生じている。Rajabhat 大学のように低くランキングされた大学は結果を拒絶している。Commission of Higher Education(高等教育委員会, CHE)の発表した大学リストでは、Mahidol, Chulalongkorn, Chiang Mai 大学が教育と研究の双方でトップクラスに位置づけられている。大部分が地方にある Rajabhat 大学は5番目のグループにランクされ、最低の評価を受けている。Surat Thani Rajabhat 大学長 Narong Puttacheevin 氏は結果を認めず、評価システムには基準がなく、それぞれの大学の異なる見地の理解が十分でないという。「最も大事なことは、CHE の事務局長 Pavich Tongroach 氏が Rajabhat 大学に偏見を持っていることだ。大学のこれまでの歴史や発展途上の地方コミュニティでの役割を除外している判定基準からもそれは指摘できる。」「私は9月に退職する Pavich 氏の最悪の業績として思い起こすことになるだろう。」「役に立たない上に、定評のある有名大学とは決して競合してこなかった新しい大学にとっ

ては悩みのタネになるだろう」とも話す。しかし Nakorn Pathom Rajabhat 大学長 Niwat Klinngam 氏は、この評価は Rajabhat 大学がいくつかの分野を改善する必要があることを示している、だからこそ政府はその支援を重点的にすべきであるという。ランキングの初年度は、タイの138大学のうち51校しか情報を寄こさなかった。この計画は、評価基準に関し個々の大学の業務全体を考慮するものではないとの理由で、前々から数名の大学長の反対を受けていたし、このようなランキングは CHE の仕事ではないと信じられていた。Thammasat 大学と有名私立大学2校はランク付けから外れている。Sukhothai Thammathirat Open 大学長で、University Presidents' Council in Thailand(タイ大学長会議)の議長を務める Pratyta Wesarat 氏は、多くの大学が反対するのは評価基準に信頼性がないからだ。ランキングシステムの改善法を議論する場を設けなければならないという。第4のグループにランキングされた Maejo 大学長 Thep Phangpanich 氏は、ランク付けが正確ならもっと上位になるはずだという。Christian 大学長 Janjira Wongkhomthong 氏は、CHE を信用していないから、私立大学はランク付けされないことを主張している。「一体どうしたら公平なランク付けができるのだろうか?」と語る。Parent's Network 会長の Kamolphon Chiwaphansri 女史は、ランキングの発想は良いが、使われた評価基準が判定に正確に反映されていない。就職した学生数や学生の IQ など他の指標も材料とされるべきだと語る。もしランク付けが正確に行われれば、改善の方向性をはっきりと見極められ、大学の利益になるでしょう。学生と親は志望する大学が本当に良いのかどうかを知ることが出来ます。Mahidol 大学の前学長は、多くの分野でトップのランク付けを受けている結果に賛同の意を表明している。教育水準で4番目にランク付けされた Shinakharinwirod 大学長は、結果は受け入れがたい。なぜならそんなに低い評価を受けるはずがないからだと言う。(2006年9月2日 The Nation)

昨日 Commission of Higher Education(高等教育委員会, CHE) が、Thammasat 大学の辞退やいくつかの機関の反対にも関わらず、その実施の信頼性に疑問がある中、国内49大学のランキングを初めて発表した。長らく待たれていたランキングは全国138の国立・私立大学のうち49大学を査定している。大学の活動や予算配分の見直しに利用するのが主目的である。高校生が大学を志願する際の判断材料としても利用できる。しかし、Thammasat 大学が不参加を決めるなど、議論の余地もある。大学は結果を受け入れないし、CHE は起こりうるさまざまな問題の責任を取るべきだと Surapol Nitikraipoj 学長は話す。研究と教育の資料も信頼に足るものでないし、正確ではないとも付け加える。大学のランキングは Office of Academic Accreditation and Educational Evaluation に委託されるべきだと Surapol 氏は言う。しかし CHE 事務局長 Pavich Tongroach 氏は、批判を無視し、努力を続けていくと言う。将来も全大学の評価を続けてランキングを改善していくと

明言した。このランキングを認める者、認めない者がいても問題ありません。学術界のために議論をしなければならぬ。大学から提供された情報を基に評価したと主張する。Pavich 氏は、海外機関によってなされるランク付けは、タイの大学にとっては受け入れがたいともいう。新規雇用者の採用指針として大学をランク付けしている会社もある。大学からの批判よりも、民間企業が大学を判断する正しい情報が得られないことを CHE は心配した、とも言う。ランキングは研究と教育の分野に分け、60の大学が評価のため CHE に情報を提供した。しかし CHE は、大学の活動を計れる有効なデータを得られた49の大学しか挙げていない。いずれの分野でも、極めて優秀、優良、良、要改善によって5つのレベルに分けている。研究と教育の両分野でトップグループにランクされたのは、Chulalongkorn, Chiang Mai, Mahidol 大学の3校。Rajabhat 大学と規模の小さい私立大学の多くが「要改善」に分類された。教育の分野では、学生および講師の数、講師の質、予算規模、外国人講師の数、卒業生の国際的な受賞が評価指標に含まれる。教育分野では、研究費の大きさが重視され、研究者の数、外国言語での研究書発行数、博士号取得および見込み学生数が指標とされた。大学は学部の専門分野によっても評価を受けた。理学分野では Mahidol 大学理学部が1位。工学の分野では Chulalongkorn 大学、生物医学の分野では Ramathibodi Hospitalno 医学部がトップとなった。人文・教養教育では、Silpakorn 大学装飾美術学部が1位となった。社会科学では Chulalongkorn 大学 Sasin Graduate Institute of Business Administration が1位、Kasetsart 大学では、農学部が農学分野で1位、教育学部が教育分野で1位となった。(2006年9月1日 Bangkok Post)

世論調査では、Commission of Higher Education(高等教育委員会, CHE)による大学ランキングによって、学生は就職活動に影響が出るのではないかと心配している。木曜日に発表された CHE による初の49大学のランキングをもとに、Assumption 大学の Abec Poll Unit は金曜日、1,152人の大学生を調査し、土曜日結果を発表した。調査した73%の学生が就職活動への影響を気に懸けている。CHE によって大学が低くランク付けされれば、職探しは難しくなると感じている。回答者の46%が、大学が低い評価を受けても気にする社会ではないと考えている。また学生の39%が、調査項目が不透明であり、大学を総合的に評価していない、また CHE 自体の信頼性に対する疑問から、ランキングに信頼を置いていないと答える。約24%はランキングを信頼し、残りは分からないという。37%の回答者はランク付けが新たな教育改善に繋がると考えている。Abec Poll Centre 所長 Noppadon Kannika 氏は、ランク付けは学生へ精神的に影響を与えていて、CHE は学生へ謝罪すべきだと要求する。低い評価の大学とランキングすることは、社会のリーダーが教育改革を行うことが出来ず、結果として教育の質や機会を地域間に平等に与えられなくなったからかもしれないとも語る。CHE は教育と研究活動によって4

9の大学をランク付けした。その評価は、極めて優秀、優秀、かなり良い、そして要改善までである。評価情報の欠如によって、全国の公立・私立大学138校のうち49校だけを評価したが、全ての大学をランク付けするまで続くことになる。(2006年9月4日 Bangkok Post)

昨日の Abac Poll による調査結果によると、近頃の Commission of Higher Education(高等教育委員会, CHE) による国内大学のランキングにより最低ランクの評価を受けた大学で学ぶ学生は非常に憂いているとの結果が出た。9月1-2日に Assumption 大学によって行われた調査の回答者1,152人のうち72.8%が, CHEのランキングによって, 将来の雇用主がリストの最下位の大学出身であると知れば, 就職活動がますます困難になると回答している。しかし66.5%は自分の大学に誇りを感じていて, 69%が自分自身や自分の能力に自信を持っている。調査した Noppadon Kannikar 氏は, CHEは学生に対して謝罪すべきで, 実用性や生産性よりもマイナス要因の多いランク付けの責任を取らなければならないという。回答者の39.3%は, ランキングは非科学的で適切な評価基準に則ったものではないとしている。他の23.6%は結果を受け入れ, 37.1%はコメントしなかった。(2006年9月4日 The Nation)

Commission of Higher Education(高等教育委員会, CHE)は, 欠点だらけで評価の基準を満たしていないとの強烈な批判を受けている, 初めての大学ランキングの結果をインターネットに公開し, 大学にその改善を促すことになった。CHEの事務局長 Pavich Tongroach 氏は, 今回49大学のランク付けに使用した評価基準を調査し改善するための, 大学講師と大学長会議のメンバーからなる共同パネルの選考があるだろうと語った。批判にも関わらず, Pavich 氏は, ランキングはいつかはなされるべきもので, 毎年更新し, 大学の教育と研究の質を公に知らしめなければならない。評価に用いた基準が, 大規模あるいは規模の小さい大学に不利に働いたかもしれない。とも語った。CHEは明日, 評価基準や手順をウェブサイト < www.ranking.mua.go.th > に掲載し公表する。

ランキングに最初に異論を唱えたのは, 社会科学分野で一般に定評のある Thammasat 大学である。それに追隨したのが King Mongkut's Institute of Technology North Bangkok (KMIT) で, 教育と研究の評価がたとえトップクラスになったとしてもランキングを拒絶する決定をした。KMIT North Bangkok の学長 Teravuti Boonyasopon 氏は, 結果はいくつもの「ごまかし irregularities」があり, ランク付けを行った研究者は, 情報収集のためにその大学に足を運んだこと一度もない, と語っている。(2006年9月6日 Bangkok Post)

タイの高等教育発展のためのセミナー開催

昨年国際的な学術雑誌に, 掲載されたタイ研究者の論文は 2,000 に過ぎなかった, との報告が昨日開かれたセミ

先月末の Commission of Higher Education(高等教育委員会, CHE)による大学ランキングの発表以来, タイの大学業界では騒動がおこっている。タイの政府当局によりなされた初の大学ランキング。関係者はこのリスト及びその意味することから学ぶべきことは多く, そして大騒ぎとなっている。大学長の多くは公には「受け入れられない信頼にもとるランキング」だとして CHE に反発する。監督官庁の教育大臣 Chaturon Chaisang 氏にリスト修正要求のクレームを提出した者もいる。CHE 事務局長の Pavich Tongroach 氏は, このリストを積極的だとして弁護する。CHE は新聞紙上で, なぜどのように大学をランク付けしたのかを詳細に説明した。ランキングには3つの目的があるという。親や学生に高等教育機関の質に関する情報を提供すること, 大学運営者に対し組織の改善点をしらせること, そして各機関への資源・財源割当てのための情報を提供すること。Pavich 氏は, 様々な分野の学者達により, 新旧すべての大学に公正さを保証するランク付けの指標を開発したと主張する。「多くの大学講師により我々の指標は受け入れられている」とも言う。いくつかの大学が CHE のリストを歓迎するなかで, University Lecturers' Council of Thailand (ULCT) は反対の意向を発表した。「ランク付けに使われた評価基準は信用できない。各大学にはそれぞれの理念があるので, すべての大学に同じように基準を適用してもうまく評価できない。また, 評価過程についても信用できない。ランク付けするのに足りる十分な情報を得ていたのかどうか」と ULCT 会長の Thawatchai Phirapatdit 氏は言う。加えて, ランキング公表によって, 多くの大学とその卒業生に対する評価は傷つけられた。ある種の不名誉の烙印である。他の大学のランキングは, 民間機関や独立した行政機関によってなされているが, CHE は大学をランク付けした初めての政府機関であろう, と語る。どうして, こんなに大騒ぎしているのか? 大学ランキングは, 国の将来を担う卒業生を輩出する高等教育機関の, 全てではないとしてもある部分を反映している。少なくとも大学は自らの改善点を見出すであろうし, 好むと好まざるとに関わらず, いくつかはタイの大学も外国の機関からランク付けされることになるだろう。不平をもらす前に, 大学の運営者, 教育者そして上級教育公務員は今回のランキングを乗り越えることに注力し, 国の高等教育のためにどのような改善を行えるかを見据える方が良くはないか。今回のランキングは大学運営者に組織の絶え間ざる改善を要求している。それと同時に, CHE は今後のランク付けの方法改善について常に聞く耳を持っておくべきである。あまり面子にこだわりすぎるのではなく, 改善していくことに喜んで応じてもらいたい。このようにしていけば, 学生達, 当然国にも利益をもたらすことになるだろう。(2006年9月11日 The Nation)

ナーであった。「90%は 8 つの大学からのもので, 残りは 130 の機関からである。」と Commission of Higher

Education (高等教育委員会, CHE) の事務局長 Pavich Thongroj 氏が調査結果を語った。Thailand Association of the Professors' World Peace Academy と Foundation for Development and Peace 共催のセミナーで、タイ高等教育発展のため、その傾向と対策を見出そうと試みられた。掲載数の高い8つの大学でさえも、1論文あたり約12の研究者によって作成される計算だ。実際のところ大学は、知識を探究する研究活動を優先し、卒業生の養成は二の次になっているという。教育大臣の Chaturon Chaisang 氏はこれに遺憾の意を表明し、国の要請に沿って卒業生の輩出に重点を当てるべきであるという。この数年間大学は独立性

世界大学長サミットがバンコクで開催される

University of Oxford 及び Newcastle University 学長の Lord Christopher Patten 氏は、開発途上国では GDP の 1.5-2.0% を教育に費やすべきだと昨日提案した。Patten 氏は、前欧州連合対外関係総局長で最後の在香港英国総領事である。バンコクで開かれた世界大学長サミットにおいて、国内外情勢の急速な変動のなかで、社会・文化・教育の要求をうまく調整することが、世界中の教育者にとっての課題だと語った。Patten 氏は、教育大臣、大学長、80カ国からの高級政府高官など1,000人超に対し、Queen Sirikit Convention Center で基調講演を行った。高等教育の目的は、伝統的な教育及び研究達成のほか、今では経済発展も加わっていると語る。教育は豊かさを産み出すのに必要な技術や職業を創造するからである。今日の世界経済において、ある国の経済発展の多くはその国民の教育や知識に大きく依存している。しかし教育への支出が GDP の成長を必ず保証するものではない。現在、米国は GDP の 2.6% を教育に支出する最大の投資者である。欧州諸国では平均して GDP の 1.1% が支出されている。米国の教育関係予算の GDP 1.2% は税金から、残りの GDP 1.4% 分は授業料と外部からの寄付、特に有名大学の多額の寄金による。Oxford や Cambridge といった数少ない英国の大学だけが、経済界や同窓生から相当の寄付を受けている。Patten 氏は、高等教育を終了し就職した学生に“卒業生税”を課し、経済的な教育サービス支援のための特別税を徴収できるように国が考えるべきかもしれないと提案する。サミット主催者の Commission of Higher Education (CHE, 高等教育委員会) 事務局長 Pro Pavich Tongroach 氏は、教育に対する要求はここ数十年間で急速に高まっていると言う。高等教育はこれまで社会の特権階級のものであり、需要は少なく、多くを国が負担してきた。タイで高等教育に進学しようとする中等教育の学生は、数十年前の 10-20% にくらべると、今では約 50% に上っている。その結果、学生数増加に伴う教育費予算が増大した。教育費は現在、特に科学技術に関する分野において、非常に高くなっている。言い換えれば、教育は徐々に国家の利益ではなくなっている。タイの私立大学のように、市場原理に委ねられるようになれば、学生は教育サービスにより多く支払わなければならないだろう。(2006年7月21日 The Nation)

を志向し過ぎて、中身を忘れてしまったのではないか。標準以下のプログラムが多々あり、国の要請にふさわしい分野での卒業生を養成すべきだという。Chaturon 氏は、社会に大学のチェック機能を持たせるため、CHE が大学を評価しその結果を公にするよう指示した。Foundation for Development and Peace 議長の Dr. Pradit Charoenthaitawee 氏は、ファミリービジネスのように大学を運営していくのは間違いで、私立大学数校での発展を批判している。我々は大学の学長である権利が必要だ、と。(2006年7月1日 The Nation)

暗記に頼る大学での学習は学生の創造力の開発を損なう、と世界大学長サミットで提唱された。革新的な発想の専門家 Edward de Bono 氏は、教師が学生に教える準備に多くの時間を費やしている現在の教授法は時代遅れだと言い、さまざまなメディアから情報を電子的に得て、教師は学生に内容を手取り足取り教えるべきではなく、大学では学生に思考法、発想法、交渉法や情報の管理法を教えるべきであるという。Dr. de Bono 氏は心理学者であり医師でもある。Dr. de Bono 氏は 80ヶ国の大学長が出席したバンコクでのサミットの有力な招待者である。大学は学生の学術的な能力をテストし、卒業させ学位を与えるばかりであり必要とは思えないという。University of Oxford 及び Newcastle University の学長の Lord Christopher Patten 氏は、大学は知識を共有すべきであり、開発途上国の大学は高等教育の発展に投資すべきであるという。しかしその投資は経済成長に対して過剰になりすぎたはいけない。あらゆる学問分野に分散されなければならない。公共の利益をないがしろにし、特に商業利益に迎合すべきでないとも付け加える。学生は自分自身で考えるよう教えられ、精神を自由にし創造的であるべきであると訴えた。National Institute of Development Administration の長 Chirayu Israngkul na Ayutthaya 氏によると、国王の指示により、学部生・修士課程学生のために自足経済の課程を提供し始めたタイの大学もある。世話役の首相 Thaksin Shinawatra 氏は、このサミットで、大学は、主に論理的な思考に基づく自然科学と人文社会科学との両立をはかるという新たな挑戦に直面していると語った。(2006年7月21日 Bangkok Post)

88カ国の大学は政治経済利益から自由である態度を表明するバンコク宣言をもって世界大学長サミットは昨日閉幕した。Commission of Higher Education (CHE, 高等教育委員会) 事務局長でありサミット組織委員会委員長の Pro Pavich Tongroach 氏は、閉会式後、高等教育の質と真の役割が3日間のサミットの最重要焦点であったと語った。88カ国から1,000を超える教育大臣、大学長、行政官の参加者は、高等教育の目的を、社会のための「知的資本」か

ら認証 (certification) への転換に関心を寄せていた、と語る。もう一つの焦点は国境を越える教育で、先進国が教育を国境を越えて拡大させようとする一方で途上国は植民地主義の新たな形態だと危惧している。バンコク宣言やその他の結論は、88 の参加国政府、ユネスコ、世界銀行、国際連合に送付される。(2006年7月23日 Nation)

先週末閉幕した世界大学長サミットでの「国境なき教育；恩恵か、破滅の元か」の講演で、University Sains Malaysia の Dzulkipli Abdul Razak 氏は、アジア太平洋地域の高等教育関係者を啓発するであろう将来の見通しを示した。一つは、海外留学している学生は 200 万人以上いて、その数は 2025 年までに 800 万人に達するだろうと演者は見積もっている。200 万人のうち 160 万人以上が経済協力開発機構 (OECD) 加盟国で学び、米国が最高の 35% で、英国 14%、オーストラリア 13%、ドイツ 12%、フランス 8%、ニュージーランド 5% と続く。多くの学生は途上国からの学生である。OECD 加盟国の他には、ロシアが主な受入国であり、特に独立国家共同体 (CIS) からの学生が多い。2005 年のロシアへの留学生はおおよそ 10 万人である。世界的に見て、高等教育に進学する生徒数はここ数十年で急速に増加し、2003 年には 1 億人を超え、中国とインドの伸びが際立つ。全体として、民間の高等教育市場は 3000 億米ドル (11 兆 3800 億円) 以上と言われている。海外留学生を多く受け入れる国にとっては、ビッグビジネスである。2003 年推計で、オーストラリアでは留学が国のサービス輸出の 13% を占め、ニュージーランドでは約 8% である。米国は、2004 年には 600,000 近い留学生を受け入れ、高等教

育で 2003 年サービス輸出の 3.2% であった。英国では 2000 年統計で、サービス輸出の約 3.2% を占めた。一方、中国などの発展途上国に留学する学生もいて、中国では 2002 年に 60,000 人を受け入れた。このうち 70% がアジア諸国からで、ヨーロッパから 12%、米国から 11% であった。他にはマレーシアが 37,000 人 (2003 年)、南アフリカ 47,000 人、エジプトが 27,000 人を受け入れた。加えて、シンガポール、マレーシア、タイ、ベトナム、中国に、海外の高等教育機関が続々と設置され、地元機関と共同プログラムを開始している。つまり、国境なき教育においては、提供者や投資家に経済ビジネスのチャンスが大いにある。一方で、課題もやはり多くある。まず世界貿易機構 (WTO) はサービスの貿易に関する一般協定に基づき、もはや教育も世界市場の貿易であると決定した。一方で教育はまだ熱心に語られることの無い部門のひとつであり、加盟国の 30% も自由化に賛成しておらず、多くの国が高等教育や成人教育よりも初等中等教育に制限を加えている。結果、海外キャンパスの開設は急増し、高等教育を熱望するアジア太平洋諸国での海外と地元高等教育機関との共同プログラムの実施も急増している。国際化という名目で、地域外から主な外国文化や価値観で支配されるのではないかということが懸念される。また、基本的な英知よりもすぐに実用可能な知識に重点が、行き過ぎではないのだが、置かれ続けている。別の課題としては世界中で眉唾物の学位が横行していることであり、さらに高等教育での汚職事件のうわさがあることである。大事なことを言い忘れていたが、高等教育は、学位認定や學術水準がお粗末であれば、信頼を失うことになる。(2006年7月23日 Nation)

One-District-One-Scholarship について

One-District-One-Scholarship (一地域一奨学金、Odos) 運動の性急さによって、奨学金の最初の受給者達に犠牲者がでるといふ弊害が出始めた。海外で学位取得ができないまま、新しい言語も習得できず学業についていけないとの理由で、31 人の学生が帰国した。奨学金受給者の 5 分の 1 は、支給の主たる要件である貧しい家庭ではなかった。ある家族は年に 168 万バツの収入があり Mahidol University で学んでいることを、National Institute for Development Administration (Nida) が明らかにした。Odos は 2004 年、2 桁 3 桁の数字を当てるインスタントくじ基金から、921 名に奨学金を与えた。うち 195 名が国内大学を選択し、726 名が海外留学をした。帰国した 31 名のうち、9 名はイタリアから、ドイツとフランス各 7 名、オランダ 6 名、中国とインドが 1 名づつだった。一人当たり 100 万バツを年平均として支給し、Odos は 3000 万バツを事前の文化・語学研修に費やした。Nida の研究者と Mahidol 大学人口社会調査研究所は、この project が急かされ不十分なままに実施されたという。不明瞭な審査過程により、申請者の家庭が年 10 万バツの所得があるかどうか、その地区長と学校長の署名だけで確認された。2004 年の奨学金受給者の 21% 以上が家庭の収入を偽って報告していた。

その半数強は年収 100,008-120,000 バツの家庭で、残りは 120,012 バツから 168 万バツの家庭だった。79% は基準以下の収入で、30% は極めて貧困な家庭であった。申請者は英語能力のみを試され、学部教育に不可欠な基礎的科目は見落とされた。この project は、英語運用能力が充分ある生徒は他の言語にも優秀だろうとの誤った仮定に基づいている。面接者によると、帰国した 31 名全員が他の留学生と仲良くしようと奮闘しストレスを感じていたという。帰国させたことは賢い選択であっただろう。それも一つの結果である。一番高い国はオランダで、Odos は一人 120 万バツを支払い、次いで英国 (105 万バツ)、フランス (101 万バツ)、日本 (95 万バツ) の順であった。教育事務次官 Ms Charuayporn Thoranin 氏によると、仕組みはすでに修正されたという。第 2 次の Odos 受給者 915 人は、家族の収入証明の提出を要求され、その地の税務官、担任、校長から証明を得る。加えて Chulalongkorn 大学で、科学、数学、英語、社会、タイ語の設計試験を受験し、テストの結果から学生は 3 つのグループに分類できる。A グループの学生は、成績優秀で好きな国に行けるが、B グループは選択に制限が設けられる。C グループは大学や専門科目修了のためだけに海外留学可能である。今年の 915 名

の Odos 受給者のうち海外留学資格がある 740 名は 3 ヶ月間の語学と文化研修を受け、17 カ国に渡航することになる。最初の 15 日間、740 名は心理テストを受け、精神的に弱いとされた学生を特定し指導するグループと同時に、Somdet Chao Phraya 病院及び Srithanya 病院の医師から異文化や精神面の適応について学ぶ。Ms Charuayporn 氏は、この事前の努力によって、奨学生がどの学術プログラ

ムを選択しても、能力を充分発揮できるものと信じている。昨週ラジオ放送で Thaksin Shinawatra 首相は、多くの奨学生は上手くいっていて、一握りの奨学生が困難を抱えている。非英語圏で大変な思いをする学生は、英語でのコースに変更を許されるだろうと語った。(2006年7月23日 Bangkok Post)

< Odos 受給者の渡航先 >

	フランス	タイ	日本	中国	ドイツ	スイス	オランダ	カナダ	スペイン	
2005	182	175	158	99	89	52	47	40	16	
2004	182	191	121	96	81	25	79	-	14	
	ロシア	イタリア	オーストリア	マレーシア	スウェーデン	デンマーク	インド	エジプト	シンガポール	合計
2005	16	14	11	5	4	3	2	1	1	915
2004	10	69	18	6	3	6	19	1	-	921

政府の Odos 計画で海外留学する学生にとって主に障害になるのは、語学力の不十分さと一般知識の無さである。留学を断念し帰国した学生もいる。フランスの Francois Rabelais 大学で社会学を学ぶ奨学金を得た Phornphilat Noisukkha さんはいう。「そこで勉強し続けても卒業できなかった分からない。金の無駄だ。これ以上私に無駄使いすべき

でない。」Phornphilat さんは 2004 年の Odos プログラムの審査基準をパスした学生の一人である。Francois Rabelais に居場所を得るまで、プログラムの French foundation courses を受講していた。彼女は入学資格と生活費月額 900 ユーロ(43,300 バーツ)を蹴って、2 ヶ月で帰国を決心したという。(2006年7月23日 Bangkok Post)

シンガポールの米国大学拠点が撤退

シンガポールは火曜日(25日)、資金提供している Johns Hopkins University 微生物研究施設が、十分な成果を達成できないため、1年以内に閉鎖することを発表した。シンガポール政府の科学技術研究省(ASTAR)は、1998年から8200万シンガポールドル(19億バーツ)の支援を受けたにも関わらず、Johns Hopkins 大学のシンガポール拠点は、研究教育成果を上げることが出来なかったと話す。この部門は、拠点立上げに際し「双方で合意」した目標のひとつであった一流の科学者をシンガポールへ誘致することを実現できなかったと ASTAR の微生物研究審議会会長の Dr. Andre Wan は説明した。Dr. Wan によると、さ

らにその研究施設では13のうち8の実績を上げることが出来ず、「我々は、シンガポールのために成果の出していない共同研究に公的資金を継続して投入することを正当化することは出来ない」と語る。5月に話し合いは行き詰まり、ASTARは、12ヶ月以上段階的にこの施設を縮小しようとし、新しい共同研究に再度焦点をあてようとする米国 Baltimore の大学本校に知らせた。ASTARは研究施設の60名の職員は、米国 Baltimore への移転がシンガポールで新たな職を見つける助力を受けることになる。(2006年7月27日 The Nation)

電子・コンピュータ技術センター(NECTEC)新所長

National Electronics and Computer Technology Centre (電子・コンピュータ技術センター, NECTEC)次長 Pansak Siriruchatanapong 氏が10月1日をもって所長に昇格する。8年間 NECTEC で情報通信技術(ICT)の発展に邁進してきた Thaweesak Koanantakool 氏の後任として、NECTEC の選考委員会は Pansak 氏を選んだ。着任の前に、Pansak 氏は NECTEC の ICT 発展の進む道を検討している。2007年から2010年の4年の任期中、彼は ICT 発展のため、研究開発を支援し国内に真の ICT 産業を創造すべく、マイクロエレクトロニクス、ソフトウェア、埋込みシステム(Embedded Systems)の3領域により焦点をあてようとしている。マイクロエレクトロニクス部門に関して、NECTEC は ICT 産業発展のロードマップのみならず、大学と民間そし

て政府部門からなる組織を立ち上げ、技術知識の移転により ICT 産業を支援するような新機軸を作り出そうとする。この分野で NECTEC はハード・ディスク産業に注目している。タイは世界を牽引するハード・ディスク製造拠点のひとつであり、2004年ハード・ディスクの輸出額は4830万バーツ、全輸出額の12%にあたる。Hitachi, Fujitsu, Seagate といった主要ハード・ディスク製造者は製造拠点をタイに置いており、NECTEC は国内の技術発展に役立てることを計画し、一方で産業の需要に追いつくための予行演習を行っている。ハード・ディスク産業を支援するため3つの大学に拠点を立ち上げ、テストラボとして運営する予定だ。その3校とは Khon Kaen 大学, King Mongkut's Institute of Technology Ladkrabang (KMITL), King Mongkut's

University of Technology Thonburi (KMUTT) になるだろう。Khon Kaen 大学の拠点は、電子部品、ハード・ディスク部品開発の拠点、KMUTL と KMUTT はそれぞれソフトウェア解析と先端的製造の拠点となるだろう。ソフトウェア部門では NECTEC は、他国からのソフトウェア開発プロジェクトの外部委託に対応できるように国内技術を向上させながら、国内ソフトウェア開発者を奨励し、開発物を国際基準に達するまで拡大しようとする。ゲームソフトやモバイルコンテンツサービスといったモバイルアプリケーションソフトウェア開発に、さらに焦点があてられることにもなるだろう。開発者が容易にデータにリンクできるモバイル基盤の相互運用基準の開発も視野に入れ、一方ではモバイル接続のアプリケーションは携帯電話使用者に新しい種類のサービスを提供することになるだろう。最後の領域は埋込みシステム

(Embedded Systems) に関連するものである。アプリケーション装置のために特別に設計されたコンピュータのハードウェアとソフトウェアの組合せである。埋込みシステムは、自動車、カメラ、携帯電話、家庭電化製品のようなインテリジェント装置の大半が日常生活に練り込まれるであろうポスト PC 時代に、重要な役割を担うことを期待されている。この実現に NECTEC は、国内ソフトウェア生産者による、埋込みシステム基盤を使ったソフトウェアの製造を促進する。埋込みシステム開発において重要な分野は、自動車工学、農業工学(埋込みシステムを農業分野に適用)、無線 IC タグ (RFID)、家庭用電化製品である。国内研究開発の社会での実用化が望まれ、タイ産業をより高い層へ移行する中で、競争性を改善するだろうとも語った。(2006年9月18日 The Nation)

InnoBioPlast 2006 / InnoMart 2006 国際会議・展示

National Innovation Agency (国家技術革新局, NIA) は、Thai Bioplastics Society (タイ・バイオプラスチック学会) とドイツの機関 Deutsche Gesellschaft für Technische Zusammenarbeit (GTZ, GmbH) と、キャッサバからバイオプラスチックを製造し、世界規模でバイオプラスチックの認識を確立するための研究実施に関する4年間のロードマップ作成のメモランダム (MOU) を締結した。予算は18億パーツを見込んでいるが、まだ認められていない。MOU は昨日 Siam Paragon Shopping Complex で、9月24日まで開催される InnoBioPlast 2006 / InnoMart 2006 国際会議・展示の開会式の中で署名された。このイベントは NIA と National Research Council of Thailand (タイ学術研究会議, NRCT) と Office of Small and Medium Enterprises Promotion (中小企業振興局, OSMEP) とでお膳立てされた。NIA の長官 Supachai Lorlowhakarn 氏によると、3機関は今年の初めから MOU に基づき始動し、ロードマップは研究・開発、投資と市場、人材トレーニング、社会基盤(ロジスティック・システム (LS) を含む) の4つからなるという。研究・開発は、民と官の協力によってなされるが、一方では、民間部門は投資と市場の面において支援を求められ、大学は人材の訓練を求められる。3機関はロードマップの草

案が出来上がった際に、政府の支援を求めるため、また関連組織の責任を明確にするため、National Economic and Social Development Board (経済社会開発局, NESDB) に付託する。このロードマップは、バイオプラスチックが重要課題とされている第10次国家社会経済開発プランの流れに沿っており、この第10次プランは来月から2011年まで実施されるという。ロードマップが実現されるかに関わらず、3機関はそれぞれバイオプラスチックの研究を行い、啓蒙活動を実施する。Supachai 氏は、タイは、多くの原材料があり、キャッサバからバイオプラスチックを開発しようとする今や唯一の国で、他の国ではトウモロコシを使っている。タイではトウモロコシをそれほど栽培しておらず、バイオプラスチックへの転用にはキャッサバの方が安上がりだろう。タイが国際競争力を高めるのに役立つ。多くの国、例えば EU では、ある物質を製造するために、バイオプラスチックを含め、リサイクル可能あるいは分解可能でなければならないとの規制がある。全体としてタイの農業を促進することになる。キャッサバはコメ、サトウキビと並んで主要な経済的作物のひとつであり、政府はキャッサバ生産者から、キログラムあたり現在の1.31パーツを、2、3倍の値段で買い取ることになる。(2006年9月22日 The Nation)

< 活動の記録 >

7 月

- 3日(月) マヒドン大学訪問(吉田センター長)
- 4日(火) タイ科学技術開発庁 (NSTDA) BIOTECH 開講式出席, NSTDA アドバイザー橋本氏訪問, Prason 氏来訪, マヒドン大学受賞者祝賀会出席(吉田センター長)
- 5日(水) 日本学生支援機構 中尾室長ほか来訪, 日本国際教育交流情報センターバンコク事務所訪問(吉田センター長)
- 7日(金) NICT 発表会出席, NRCT 来訪(吉田センター長)
- 7日(金) ~ 16日(日) 一時帰国(五十嵐副センター長)
- 14日(金) マヒドン大学訪問, NSTDA 訪問・タイ国科学技術週間展示会会議

- 17日(月) NSTDA 訪問・打合せ
- 18日(火) JETRO 訪問・元日本留学生を対象とする調査会議(吉田センター長)
- 19日(水) Pico 社来訪
- 20日(木) JAXA 斎藤バンコク駐在員事務所長 来訪
- 26日(水) 泰日経済技術振興協会訪問・打合せ(吉田センター長, 五十嵐副センター長)
- 29日(土) ~ 8月6日(日) 一時帰国(吉田センター長)

8 月

- 7日(月) 京都大学東南アジア研究所バンコク事務所 訪問・打合せ(吉田センター長, 五十嵐副センター長), NSTDA アドバイザー 橋本氏ほか 訪問・打合せ(吉田センター長, 五十嵐副センター長)
- 8日(火) 理化学研究所 小川氏, 落合氏 来訪, 大阪大学 西宗特任教授ほか 来訪
- 9日(水) マヒドン大学訪問(吉田センター長)
- 10日(木) タイ国科学技術週間展示会展示物搬入
- 11日(金) ~ 22日(火) タイ国科学技術週間展示会
- 11日(金) 文部科学省 渡邊国際研究専門官, 関学術行政調査員
- 23日(水) National Innovation Agency 高橋アドバイザー 来訪
- 24日(木) ARAT Workshop “Solar Cell”開会式出席(吉田センター長, 五十嵐副センター長)
- 29日(火) ~ 9月7日 一時帰国(五十嵐副センター長)

9 月

- 7日(木) 横浜国立大学 近藤教授 来訪
- 8日(金) Thailand Research Expo 展示物搬入
- 9日(土) 京都大学 吉川教授ほか 訪問・打合せ
- 9日(土) ~ 13日(水) Thailand Research Expo
- 12日 ARAT セミナー講演(吉田センター長)
- 13日(水) NIA 高橋氏来訪
- 13日(水) ~ 17日(日) 一時帰国(吉田センター長)
- 14日(木) 横浜国立大学 近藤教授, 文部科学省 青木研究官 来訪
- 21日(木) Symposium BioPlastics 2006 出席(吉田センター長, 五十嵐副センター長)
- 22日(金) 京都大学 荒井助教授 来訪, タイ農業研究開発庁 Prof Montri 氏 来訪

監 修 吉田 敏臣(バンコク研究連絡センター長)
編集担当 五十嵐 久敬(バンコク研究連絡センター副センター長)
編集補助 AMORNWONGSWANG, Oranuch (バンコク研究連絡センター現地職員)